

話題導入ストラテジーの韓日対照研究

鄭榮美*

(e-mail : youngmi0425@hotmail.com)

目次

1. 研究目的
 2. 先行研究及び理論的背景
 3. 研究方法
 4. 分析項目
 5. 分析結果及び考察
 6. まとめと今後の課題
-
-

1. 研究目的

本研究では、会話の中で話題が導入される時、どのような言語的ストラテジーが使われるのか、またそのストラテジーの運用において韓日の相違点や類似点はあるのかを明らかにすることを目的とする。「話題」は、三牧(1999:50)に倣い、「会話の中で導入、展開された内容的に結束性を有する事柄の集合体を認定し、その発話の集合体に共通した概念」と定義し、話し手と聞き手との相互作用によって成立、展開されていくものであると捉える。そして、話し手が新しい話題を導入したり、先行する話題へ回帰したりする際に用いるストラテジーを「話題導入ストラテジー1」と定義する。

* 清州大学 日語日文学科 非常勤講師

- 1) 木暮(2002:7)は話題が転換する際に使われる表現ということで「話題転換表現」という用語を使用している。また、山本(2003:67-68)は話題転換を合図する言語表現という意味で「話題転換マーカ」と呼んでいる。本研究では会話参加者が話題を変える際に何らかの言語的表現を戦略的に用いるという意味で「話題導入ストラテジー」という用語を用いる。

2. 先行研究及び理論的背景

話題に関する研究は、話題の概念とその展開構造を論じたもの(串田1997、南1981、村上・熊取谷1995、Keenan and schieffelin1976)、選択される話題の内容に焦点をおいたもの(三牧1999、李正子2007)、ポライトネスの観点から考察を行ったもの(宇佐美1994、奥山2005、熊谷・石井2005)、話題転換に焦点をおいたもの(木暮2002、山本2003)など多様な観点から行われている。

ここでは、木暮(2002)と山本(2003)が話題転換における言語表現を取り上げていることから本研究と関連深いと考え、この二つの研究を中心に見ていく。木暮(2002)は日本語母語話者同士の会話と接触場面の会話を用い、話題転換の際に見られる表現形式²⁾について分析している。母語話者は話題転換を示す表現の使用率が非常に高く(80%以上)、その中でも接続表現(談話標識と接続詞)の使用率が過半数を占めると報告している。一方、学習者は個人差が大きいですが、学習の発達的な観点から捉えたと、使用形態の変化は、学習のレベルが上がるにつれて、認識の変化と談話標識⇒接続詞⇒メタ言語的発話の順で多用しているとしている。さらに、表現形式別の使用傾向を示し、日本語教育への応用の可能性を論じている。しかし、なぜそのような使用傾向が見られたのかまでは考察していない。また、日本語学習者である被験者の第一言語³⁾が統一されていない点から、第二言語の運用における第一言語の影響が考慮されていないと考えられる。

一方、山本(2003)は、アメリカと日本のテレビのトーク番組を資料として話題の結束性と話題転換マーカの使用傾向を結びつけて分析をしている。その結果、英語と日本語ともにより処理負荷の高い、つまり先行する話題との結束性の薄い非連続タイプの話の導入により頻繁に話題転換マーカが使われると述べている。そして、それは、話題転換マーカが、聞き手にかかる情報処理負荷度が高い時にその負荷を軽減する補助装置として働くことを示唆すると説明している。しかし、この研究は、トーク番組が資料であるため、分析結果が自然会話の言語運用をどの程度反映しているかは、さらなる検証の余地があろう。

そこで、本研究では先行研究の問題点を踏まえた上で、一定の条件を統制してから収録した会話⁴⁾を用い、その中で見られる「話題導入ストラテジー」を分析する。

その後、「話題導入ストラテジー」の使用傾向をポライトネス理論(Brown and Levinson, 1987)の観点から考察する。

2) 木暮(2002: 8-9)は話題転換の際に見られる表現形式を、①認識の変化を示す表現、②接続表現(談話標識、接続詞)、③メタ言語的発話、④話題のフレームの提示、⑤話題そのものの提示、⑥会話相手の名前を呼ぶ、の6つに分類している。

3) 被験者の第一言語は、フランス語、インドネシア語、マレー語、中国語である。

4) 会話収録における条件統制や手続きの詳細は3.1を参照。

Brown and Levinson (1987) はすべての人間が持っている欲求として「フェイス (face)」という概念を打ち出している。「フェイス」には、「他者に理解されたい、好かれたい、賞賛されたいという欲求」である「ポジティブフェイス (positive face)」と、「賞賛されないまでも、少なくとも、他者に邪魔されたり、立ち入られたくないという欲求」である「ネガティブフェイス (negative face)」があるとされる。「ポジティブフェイス」を満たすことが「ポジティブポライトネス (positive politeness)」であり、「ネガティブフェイス」を満たすことが「ネガティブポライトネス (negative politeness)」であるとしている。

そして、人間の行動には本質的にフェイスを脅かすものがあり、それを「フェイス侵害行為 (FTA: Face Threatening Acts)」としている。「フェイス侵害行為」における「フェイス侵害度」は、話し手と聞き手の社会的距離、聞き手の話し手に対するパワー、行為そのものが持つ負担の度合いを合わせて見積もられると述べている。

「フェイス侵害行為」を行う際に用いる「ポライトネスストラテジー (politeness strategy)」は、1) 軽減行為なし、あからさまに言う (without redressive action, baldly)、2) ポジティブ・ポライトネスストラテジー (positive politeness strategy) (15種類)、3) ネガティブ・ポライトネスストラテジー (negative politeness strategy) (10種類)、4) 言語表現で明示しない (off record) (10種類)、5) フェイス侵害行為を行わない (Don't do the FTA)、に分類される。この中で1) 2) 3) のストラテジーは言語表現で明示する (on record) というストラテジーとなる。ストラテジーの番号が大きくなるにつれ、ポライトネスの度合いも大きくなるとされる。

3. 会話データの基本情報及び分析方法

3.1 会話データの基本情報

Brown and Levinson (1987) は、話し手の言葉遣いに影響する要因として、力 (power)、距離 (distance)、ある行為に対する負担の度合い (rank of imposition) を挙げている。本研究では、表1で示したように、言語以外の要因はすべて統一した上で会話収録を行った⁵⁾。

表1 会話データ収集の条件統制

言 語	韓国語	日本語
力	大学生・同年代	
距 離	同性 (女性) ・友人	
負担の度合い	誘いに対する気軽さ (負担の度合いは少ない)	

5) 日本語会話は2003年5月～6月、2004年5月～7月に、韓国語会話は2004年3月～5月に収録した。

会話収録時には、協力者ペアのうち一人を誘い手と設定し、できるだけ普段通りの話し方で、「自分が負担に思わずにできることを今の会話相手に誘ってください」と依頼した。被誘い手には普段通りに話すことのみを依頼し、相手だけ誘いが行われるということは伝えていない。会話時間は、目安の時間(10分ぞい。分)を提示したが、厳密に守る必要はなく、自然に終わらせるよう依頼した。会話収録後は、フォローアップ アンケート調査により、自然に会話ができただどうかを確認した。

分析対象となった会話は韓日各9会話(協力者：韓18名、日18名、計36名)である。会話時間の合計は韓国語会話が110分28秒、日本語会話が211分28秒で、日本語会話が韓国語会話に比べ約2倍の長さである。

日本語の会話データは、宇佐美(2007)の「基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)」、韓国語の会話は宇佐美他(2007)の「基本的な文字化の原則韓国語版(Basic Transcription System for Korean: BTKS)の試作版(第1版)」に従って、会話開始から会話終了まですべて文字化した。文字化は3回にわたる確認作業を行った上で、評定者間信頼性係数(Cohen's Kappa(κ))を測定し、その信頼性を確認した(韓国語の会話データ： $\kappa=0.902$ ($\kappa>0.85$)、日本語の会話データ： $\kappa=0.895$ ($\kappa>0.85$))⁶⁾。

3.2 分析方法

「話題導入ストラテジー」を分析するためには、まず何を基準にして一つの話題と認定するのかを決めなければならない。しかし、会話を用いて、話題の内容や話題導入の頻度、または話題転換などを分析している先行研究のほとんどは、話題の範囲認定の基準を明示せず、話題の抽象的な定義にとどまっている。話題というものは抽象的な概念を持つもので、話題の範囲を認定する人の百科事典的な知識⁷⁾の違いに左右されやすい相対的な性質を持っている。そのため何らかの言語形式で話題の範囲を一概には決められない。しかし、話題の認定の基準によって研究の結果も大いに変わり得るので、その基準を明示する必要はあるだろう。そこで、本研究ではメイナード(1993)、串田(1997)、村上・熊取谷(1995)、Hinds(1982)などを参考に、本研究における話題の範囲を認定する手がかりとなるものを、言語的な要素、非言語的な要素、構造的な要素に分けて表2に示す。その後、会話例を挙げながら説明する。

6) 文字化における評定者間信頼係数(Cohen's Kappa(κ))とは、文字化の改行の信頼性を確認するために、研究者と第三者間の改行の一致率を計るものである。木山・施信余(2004: 62-63)によると、計算式は【 $\kappa=Po-Pc$ / $1-Pc$ (Po : 実際観察された比率, Pc : 偶然による比率)】であり、 κ の値が機械的な作業の要素が強い分類では $\kappa>0.85$ 、研究者の主観が強く働く分類では $\kappa>0.7$ であればそのデータは信頼できると判断される。

7) 石綿(1969: 149)を参照。

表2 話題の範囲認定の手がかり

言語的な要素	話題開始部に 見られる要素	1) 初出語 2) 話題を変える意図を表示する表現 3) 注目を引く不変化詞 (副詞、前置詞、接続詞など) 4) 時制の転換 5) 話題化しようとする事柄を質問する。 6) 話題化しようとする事柄を告知する。
	話題終了部に 見られる要素	1) やりとりの内容に対するまとめや 評価をする表現 2) 限られた反応
非言語的な要素	間、沈黙	
構造的な要素	質問⇒答え 述べる⇒応じる	

【会話例1】 8)

ライン番号	話者	発話内容	話題内容
71	JF08	【】それで「友人03名前」ちゃんの話に?。	話題 I : 友人03の 仕事
72	JF07	あ、そうそう、「友人03名前」ちゃん<2人笑い>。	
73	JF08	<笑いながら>なんの、###テレビ朝日から<2人笑い>。	
74	JF07	そうそうそう。	
75	JF07	うーん、テレビ局が、で、なんか、すごいやばいシーンとかあって、そういうの編集するんで、気持ち悪くなっちゃたとか。	
76	JF08	へえー、え、でも、テレビ局に、じゃ、行ってるのね。	
77	JF07	うん。	
78	JF08	<u>すごい、格好いいね。</u>	
79	JF07	ねえ。	
80	JF07	なんか、だから、「友人03名前」ちゃんって、そういう…。	
81	JF08	うん。	
82	JF08	/沈黙2秒/会った?。	
83	JF07	1回だけ会って、すごい眠そうに、「今日2時間しか寝てないよ」とか言ってた。	
84	JF08	<u>そうなんだ、格好いいね。</u>	
85	JF07	ねえ。	
86	JF08	今度なんかおごってもらおう<最後少し笑い>。	
87	JF07	そうだね。	

88	JF07	<u>なんか、皆、就職するのか。</u>	話題Ⅱ： JF08のスペイン留学
89	JF07	/少し間/スペイン、行くの?。	
90	JF08	行きたいけど、金ないよ<2人笑い>。	
91	JF07	スペインに行きたい?。	
92	JF08	行きたいんだけどね(うん)、このままだと、ちょっとビザが間に合わなくてね(あー)、行けないかも、なんか。	
93	JF07	留学??は?。	
94	JF08	ま、続く#んだけど。[#部分は外のバイクの音で聞こえない]	
95	JF07	ああー。	
96	JF08	留学したら、でも、私交換留学じゃないから(うん)、卒業は遅れるんだくけど><。	
97	JF07	<あー><>、そうか。	

会話例1は二つの話題に分けることができる。話題Ⅰはライン番号71からライン番号88までで「友人03の仕事に関する話」であり、話題Ⅱは、「JF08のスペイン留学に関する話」で、ライン番号89からライン番号97までである。二つの話題に分ける手掛かりとなるものを挙げると、まず言語的な要素としては、話題Ⅱの開始部に見られる「スペイン」という「初出語」と「スペイン、行くの?」という「話題化しようとする事柄を質問する」というものである。また、話題Ⅰの終了部に見られる要素として「やりとりの内容に対するまとめや評価を表す表現」（ライン番号78、ライン番号84、ライン番号88の発話文）がある。次に、非言語的な要素としては、ライン番号89の発話文の前に存在する「間」が挙げられる。そして構造的な要素⁹⁾としては「JF07の質問（ライン番号89）に対するJF08の答え（ライン番号90）」というやり取りを挙げることができる。ここではこれらの要素を総合的に取り入れて一つの話題の範囲を認定している。

本研究で取り上げる「話題導入ストラテジー」は以上の手がかりによって認定された話題の開始部に見られるもので、話題開始の発話文の中で命題内容と直接的な関係をもたない言語的要素である。ここでは村上・熊取谷(1995)、木暮(2002)、山本(2003)を参考にして、「メタ表現」、「認識の変化を示す表現」、「談話標識」、「注目の呼びかけ表現」の4種類に分類する。各ストラテジーの定義は以下のようである。

8) 会話例において、ライン番号は一つの発話文が占める行数を表すものである。話者の表記におけるKFは韓国人の女性 (Korean Female) であり、JFは日本人の女性 (Japanese Female) である。

9) 本研究では、話し手によって取り上げられた事柄に対する聞き手の反応がない場合は話題として成立していないと捉えている。それは会話における話題は話し手と聞き手との相互作用によって成り立つものだと考えているためである。こういう意味で、一人で話す演説のようなものにおける話題とは異なる。

- 1) 「メタ表現」
 - : 自分、あるいは相手の言ったこと、これから言うことに言及する表現。言語行動に言及する表現も含める。
 - 例) 韓: 할 말이 있는데~ 日: 話は変わるけど~
- 2) 「認識の変化を示す表現」
 - : 何かを思いついたり発見したりすることにより、認識に変化が起きたことを示す表現。
 - 例) 韓: 아 맞다~ 日: そう言えばさ~
- 3) 「談話標識」
 - : 会話の構成や展開、内容などを示す手がかりとなるもの。接続表現を含む。 例) 韓: 아~, 그런데~ 日: え~, なんか~
- 4) 「注目の呼びかけ表現」
 - : これから話す物事に対して相手の注意を引きつけるために用いる表現。 例) 韓: 야, 뭐지~ 日: ねえ, なんだっけ~

では、実際の会話の中でこれらのストラテジーがどのように用いられているのかを会話例から見る。

【会話例2】 「メタ表現」の例

ライン番号	話者	発話内容
427	JF03	じゃ、6月の末の週末<とかにしようね>{<}。
428	JF04	<オッケー>{>}、オッケーオッケー。
429	JF04	じゃ、ちょっとたくさん声かけよう。
430	JF03	うん。
431	JF04	どうだろう。
432	JF04	なんかね、 <u>さき、なんか、言おうと思ったんだ。</u>
433	JF04	飲み会から…、あっ[思い出したように]、語劇さ、なにやるの?。
434	JF03	あー、私ね、ど、道具と照明とかするかな。
435	JF04	っていうかキャストが集まんさそうだね。

上記の会話例では、JF03とJF04が飲み会の約束の確認をした後、JF04のライン番号432の発話文から語劇への役割へと話題が移っている。話題を変えるにあたって「なんかね」「あっ」というような複数のストラテジーが用いられているが、ここでは「メタ表現」に注目して説明をする。話題と関連する命題は「語劇さ、なにやるの?」という次の発話文¹⁰⁾(ライン番号433)となるが、JF04は話題を変えるに当たって「さき、なんか、言おうと

10) 発話文は、「会話という相互作用の中における文」と定義される(宇佐美, 2007: 17)。

思ったんだ」と、自分が何かを言おうとしていることをJF05に明確に示している。それから語劇での役割という話題を取り出している。

【会話例3】 「認識の変化を示す表現」 の例

ライン番号	話者	発話内容
56	KF04	<그래, 거기에>{>} 무슨 소보, 소, 소바??,,
57	KF03	음.
58	KF04	그러던 데든데 되게 좀, 좀 특이한 게 좀 많긴 많더라.
59	KF04	근데 【.
60	KF03	】 <u>아, 맞아</u> , [생각났다는 듯이] 나 오빠두 구두 산다구 그래 갖구, 오빠랑 동대문 가서,,
61	KF04	어.
62	KF03	페레가모 짝퉁,,
63	KF04	어.
64	KF03	둘이서 그냥 같이 살라구 그러는데 어떨까?.
65	KF04	아니야, 야, 동대문 구두 되게 비싸.

会話例3で、KF03とKF04はネットショッピングの話をしていて、KF04は「소바」という店の評価をし、「근데」という接続表現を用いて話を続けようとしたが、KF03が「아, 맞아」を発したので話の続きを中断する。一方、KF03は「아, 맞아」を発することによって発話権を獲得した後、自分が彼氏とペアで買いたい靴のスタイルに関する話を切り出している。そこで、話題はネットショッピングの話からペア靴の話へと変わっている。

【会話例4】 「談話標識」 の例

ライン番号	話者	発話内容
238	JF13	つつか, 3回休んだしもう。
239	JF14	あの馬鹿<だしね>{<}。
240	JF13	<まじ, まじ>{>}<にリーチかかてる>{<}。
241	JF14	<笑いながら><まじ馬鹿だしね>{>}。
242	JF13	やばいね(<笑い>)。
243	JF13	すげーやばいよ(<笑い>)。
244	JF14	私意外とね(うん)、平気だよ。
245	JF14	あ、でも遅刻多いけど…(うん)。
246	JF14	<u>っていうか</u> 、なんかとれてるし。
247	JF14	何これ?。
248	JF14	あ、何でとれ、とれてるね、これ明らかに<きらひら>{<}。
249	JF13	<あっ>{>}本当だ。

ここではJF13が授業を3回も休んだのでこれ以上休んではいけないと話しているところに、JF14は自分は平気であると話している（ライン番号238～245）。しかし、JF14が自分の靴が壊れたことについて触れることによって話題は靴へと変わっている。JF14はこれから話す話題が実際には先行する話題と全く関連のないものにも関わらず、何らかのかかわりがあるかのように「っていうか」という表現を用いて、話を切り出している。

【会話例5】 「注目の呼びかけ表現」の例

ライン番号	話者	発話内容
1	KF02	오늘 토익 시험쳤더니 진짜 덩다.
2	KF01	음.
3	KF01	야, 우리, 놀러 갈까?, 이번주나 다음주에.
4	KF02	어디로?.
5	KF01	음--, 어디 갈까?.
6	KF01	우리끼리 애들 막 몰, 모아 갖구 가자, 같이.
7	KF02	정, 「친구01이름」 이는 계곡으로 놀러 가재=.

KF02とKF03は会話を開始するにあたって、まず天気について話をしている。そして、KF01の「야, 우리, 놀러 갈까?, 이번주나 다음주에.」という提案（ライン番号3）により話題は「遊びに行くこと」へと移る。KF01は遊びに行くことを提案するにあたって、KF02の注意をひきつけるために呼びかけの表現「야」を用いている。

4. 分析結果及び考察

韓日の会話データから話題を抽出した結果、韓国語の会話データ（以下韓国語の会話）では250話題が抽出され、1話題当たりの平均時間(秒)は26.51であった。一方、日本語の会話データ（以下日本語の会話）では392話題が抽出され、1話題当たりの平均時間(秒)は32.53であった。1話題の平均時間の長さから同じ時間における話題の数を類推してみると、韓国語の会話が日本語の会話より数多くの話題を持ち、その分、話題の転換も頻繁に起こることが分かる。

表3 韓日の話題の数と1話題当たりの平均時間

言語	会話数	会話時間	話題の数	1話題当たりの平均時間 (秒)
韓国語	9	110分28秒	250	26.51
日本語	9	211分28秒	392	32.53

各話題の開始において「話題導入ストラテジー」の使用有無を見ると、表4で示したように、韓国語の会話では「話題導入ストラテジー」を使用していないものが250話題の中、162話題で全体の60%を超えている。その一方、日本語の会話では「話題導入ストラテジー」を使用しているのが392話題の中、237話題で全体の60%を超えるという反対の結果が出た。

表4 韓日の「話題導入ストラテジー」の使用有無の頻度と割合

言語	話題導入ストラテジーの使用		
	有(%)	無(%)	合計(%)
韓国語	88(35.2)	162(64.8)	250(100)
日本語	237(60.5)	155(39.5)	392(100)

話の中で話題を変える際に「話題導入ストラテジー」を使用していない例を挙げると以下の会話例6のようである。

【会話例6】 「話題導入ストラテジーを使用していない」例

ライン番号	話者	発話内容
157	JF01	なんか主人公の人、(うんうんうん)が好きなんですよ。
158	JF02	あー。
159	JF01	大好き。
160	JF02	うーん。
161	JF01	だから観たいなって、
162	JF02	あー。
163	JF01	思っさー。
164	JF02	<u>バイトしてるんだけど</u> 。←[新しい話題開始の発話文]
165	JF01	あ、してるんだ、そうだ。
166	JF02	そう。
167	JF01	何くしてるんだっけ?><。
168	JF02	<お菓子>>屋さん。

この会話は、JF01とJF02と一緒に映画を見に行くことにした後、その映画の主人公役の女優の話をしているところに、JF02が自分のバイトの話が始めている部分である。JF02の「バイトしているんだけど」という発話文は先行する話題とは全く結束性を持たないものである。新しい話題を導入するに当たって、JF02は話題を変えることに関する何の前触れもなく、話題の核となる「バイトをする」という命題内容を伝えるだけである。そこで、ここでは「話題導入ストラテジー」が使用されていないと判断する。

本研究で取り上げている「話題導入ストラテジー」は話題転換を表す何らかの言語表

示的な要素である。そこで、「話題導入ストラテジー」の使用は、話し手が聞き手に自分がこれから新しい話題を導入しようとしていることに関する何らかのヒントを与えることになると考えられる。

Brown and Levinson(1987:213-215)は、「言語表現で明示しない(off record)」ストラテジーの一つとして「ヒントを与える(Give hints)」ことを挙げている。話題の転換においてヒントを与えることは、何の前触れもなくいきなり新しい話題を導入する唐突さを回避するという効果を持つと解釈される。したがって、「話題導入ストラテジー」の使用有無の観点からすると、本研究のデータにおいては、日本語の会話が韓国語の会話より唐突さの回避という点ではよりポライトであると言えるだろう。

次は、「話題導入ストラテジー」に注目し、各ストラテジーの使用状況と言語形式について見てみる。各ストラテジーの使用頻度と割合を使用率の高い順で示すと表5のようである。

表5 韓日の各話題導入ストラテジーの使用頻度¹¹⁾と割合

話題導入ストラテジー	韓国語	日本語
	使用頻度(%)	使用頻度(%)
談話標識	65(63.11)	301(84.08)
注目の呼びかけ表現	29(28.16)	29(8.10)
認識の変化	9(8.74)	24(6.70)
メタ表現	0(0)	4(1.12)
合 計	103(100)	358(100)

「話題導入ストラテジー」の種類別の使用頻度をみると、韓国語の会話では全体103回の中、「談話標識」が65回で60%を超え、「注目の呼びかけ表現」が29回で30%近く使われている。しかし、「メタ表現」は一回も使用されていない。日本語の会話でも「談話標識」、「注目の呼びかけ表現」の順に使用率は高いが、後者は全体358回の中29回での10%にも至らず、ほとんどが談話標識(301回で全体の約84%)である。また、少数ではあるが、メタ表現が4回使われている。これらのストラテジーを話題転換の意図表示の明確さという観点から順序づけると、「メタ表現⇒注目の呼びかけ・認識の変化⇒談話標識」となる。Brown and Levinson(1987)では言語表現で明示すること(on record)より言語表現で明示しない(off record)ことの方がポライトであると捉えている。そこで、Brown and Levinson(1987)の観点からすると、本分類においては「談話標識」が最もポラ

11) 一つの話題を導入する際、複数の「話題導入ストラテジー」が用いられている場合もある。ここでは使用されたすべての「話題導入ストラテジー」を数えている。

仆なストラテジーであると位置づけることができる。両言語において、最も明示的な「メタ表現」をほとんど使わず、「談話標識」を多く使っているのは、話題の転換においてよりポライトでありたいという話し手の意図の表れであると解釈できる。

それでは、各ストラテジーの表現形式の詳細について説明する。表6では韓日の各ストラテジーの表現形式の使用状況を使用率の高い順で表している。表現形式の分類において異形態や長音などは代表形にまとめて集計をしている。

韓国語の会話で「談話標識」に使われている表現形式は15種類で、合計65回用いられている。その中で「그런데」、「그러면」の接続表現が34回使われ、全体の50%を超えている。「注目の呼びかけ表現」は5種類で、合計29回使用されている。その中で「야」と「뭐지」が26回用いられ、全体の90%近くの使用率を見せている。また、「認識の変化」の表現形式は4種類で、何かを思い出した時によく使う「맞다」という表現が多く使われている。しかし、「メタ表現」は一つも現れていない。一方、日本語の会話では、「談話標識」が25種類で、合計301回使用されている。その中で「なんか」「え」「じゃ」の三つの表現が合計167回用いられ、全体の50%以上を占めている。そして、「注目の呼びかけ表現」と「認識の変化」の表現形式は各々6種類が現れ、前者の場合は合計29回の中、「ね」と「あの」が19回用いられ、全体の約65%を占めている。後者の場合は合計24回の中、「そう」と「あっ」が19回使用され、全体の80%近くを占めている。「メタ表現」は3種類の表現形式が合計4回用いられている。

表6 韓日の各話題導入ストラテジーの表現形式別の使用頻度と割合

話題導入ストラテジー	韓国語		日本語	
	言語表現	頻度(%)	言語表現	頻度(%)
談話標識	그런데(근데/근데-)	26(40.00)	なんか(なんかさ/なんかね)	79(26.25)
	그러면(그면/그림/그러믄)	8(12.31)	え(えー/えっ/えっさ)	56(18.60)
	아(아-)	7(10.77)	じゃ(じゃあ/じゃあさ)	32(10.63)
	그리고(그리구/그리구선)	4(6.15)	でも(でもね)	29(9.63)
	그래도(그래두)	3(4.62)	あ(ああ/あー)	23(7.64)
	그래서	3(4.62)	っていうか(ていうかさ/ていうかね)	17(5.65)
	その他(9種類)	14(21.54)	その他(19種類)	65(21.59)
	合計	65(100)	合計	301(100)
注目の呼びかけ表現	야(야아-)	16(55.17)	ね(ねえ/ねー)	10(34.48)
	뭐지(뭐냐/뭐야/저기 뭐지/저기 뭐냐)	10(34.48)	あの(あのさ/あのね)	9(31.03)

	그 있지	1(3.45)	なんだっけ	5(17.24)
	언제지?	1(3.45)	なに	3(10.34)
	잠깐	1 (3.45)	あれだよね	1(3.45)
			ほら	1(3.45)
合計	29 (100)	合計	29 (100)	
認識の変化	맞다(맞어)	6(66.67)	そう(あっそう)	10(41.67)
	아-	1(11.11)	あっ	9(37.50)
	아휴- 모르겠다	1(11.11)	そういえば	2(8.33)
	참	1(11.11)	あれ	1(4.17)
			ちょっと思い出したんだ けど	1(4.17)
			もしかして	1(4.17)
合計	9 (100)	合計	24 (100)	
メタ表現	無	0	ゆったっけ?	2(50)
			なんか言おうと思った んだ	1(25)
			言ったじゃん	1(25)
	合計	0	合計	4 (100)

4種類の「話題導入ストラテジー」の中で韓日ともに高い使用率を見せている「談話標識」について韓日比較をしてみると、韓国語の場合は、「그런데」、「그러면」、「그리고」のような接続表現が上位6位内に5つも入っており、70%近くの使用率を占めている。その一方、日本語では、上位6位に入っている接続表現は「でも」「じゃ」で使用率は約20%にとどまっている。

接続表現は先行する話題と次の話題が何らかの形で関係していることを暗示するものである。そこで、韓国語で新しい話題を導入する際に接続表現が多く使われているのは、話し手が何らかの形で後行話題に先行する話題との結束性をもたらせようとする意図の表れであると考えられる。Grice(1989)は会話には一定の規則性があるとし、それを協調の原理(Cooperative Principle)と呼んでいる。協調の原理の中で3番目に挙げられているものに「関連性のあることを言いなさい (p38)」というのがある。本研究の韓国語の会話データで話題を変える際に接続表現が多く使用されているのは、会話参加者がこの関連性の格率(Maxim)を守ろうとしていることの表れであると解釈できる。

一方、日本語においては「なんか」、「え」、「あ」のような表現形式が「談話標識」の中で50%以上を占めている。これらの表現は先行する話題と新しく導入する話題との間に結束性をもたらさないが、話し手の話題導入の意図を聞き手に否明的に伝える機

能を持つものである。ここから話し手が自分の意図を言語表現で明示しないことによってポライトさを表そうとしていると解釈する。

5. まとめと今後の課題

本稿では、韓日の女子大学生の同性友人間の会話における「話題導入ストラテジー」を分析し、ポライトネスの観点から韓日の比較を行った。その結果、日本語の会話で韓国語の会話より多くの「話題導入ストラテジー」を使用していることが分かった。そこで、本研究のデータでは日本語の会話の方が韓国語の会話よりポライトであると解釈した。また、「話題導入ストラテジー」を大きく4種類に分類し、その詳細を分析した。その結果、韓日共に「談話標識」というストラテジーが最も大きく使用されているということを明らかにした。

しかし、残された課題も多い。本研究の分析対象は、一定の条件を統一した上で収録した会話ではあるが、多様な年齢層や親疎関係、性別のデータも分析する必要があると考える。また、本研究では「話題導入ストラテジー」の運用にのみ焦点を当てた分析となっているが、話題間の結束性とストラテジーの運用との関係も分析する必要があると考える。今後はこれらの問題点を踏まえた形で研究を進めていきたい。

【参考文献】

- 石綿敏雄(1969)「構文解析自動化の研究Ⅰ－CLからの構文論の見渡し－」
『国立国語研究所報告34電子計算機による国語研究Ⅱ－新聞の用語用字調査の処理組織－』国立国語研究所、秀英出版、pp.139-174.
- 李正子(2007)「韓日若年層の話題及び會話内容に関する研究 アンケート調査と會話分析を中心に－」『日本文化學報』34、韓國日本文化學會、pp.219-235.
- 宇佐美まゆみ(1994)「性差か力(Power)の差か－初対面二者間の会話における話題導入の頻度と形式の分析より－」『ことば』15、現代日本語研究会、pp.53-69.
- 宇佐美まゆみ(2007)「改訂版：基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese:BTSJ) 2007年3月31日改訂版」『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』平成15-18年度 科学研究費補助金基盤研究B(2) 研究成果報告書、pp.17-36.
- 宇佐美まゆみ・李恩美・鄭榮美・金銀美(2007)「基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese:BTSJ) の韓国語への応用について」『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』平成15-18年度 科学研究費補助金基盤研究B(2) 研究成果報告書、pp.48-82.
- 奥山洋子(2005)「話題導入における日韓のポライトネス・ストラテジー比較－日本と韓国の大学生初対面会話資料を中心に－」『社会言語科学』Vol.8、No.1社会言語学会、pp.69-81.
- 木暮律子(2002)「日本語母語話者と日本語学習者の話題転換表現の使用について」『第二言語としての日本語の習得研究』5、第二言語習得研究会、pp.5-23.
- 木山幸子・施信余(2004)「文字化システムの習得について」『自然会話分析研究方法論ハンドブック』(宇佐美まゆみ監修、21世紀COE言語教育学位班談話班編集)、21世紀COEプログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」東京外国語大学(TUFS)大学院地域文化研究科、pp.51-65.
- 串田秀也(1997)「会話のトピックはいかに作られていくか」『コミュニケーションの自然誌』(谷泰編)新曜社、pp.173-212.
- 熊谷智子・石井恵理子(2005)「会話における話題の選択－若年層を中心とする日本人と韓国人への調査から－」『社会言語科学』Vol.8、No.1社会言語学会、pp.93-105.
- 泉子・K・メイナード(1993)『会話分析』、くろしお出版.
- 南不二男(1981)「日常会話の話題の推移－松江テキストを資料として－」『方言学論叢Ⅰ－方言研究の推進－』藤原与一先生古稀記念論集、藤原与一先生古稀御健寿祝賀論集刊行委員会(編)、pp.87-112.

- 三牧陽子(1999)「初対面会話における話題選択スキームとストラテジー」『日本語教育』103、日本語教育学会、pp.49-59.
- 村上恵・熊取谷哲夫(1995)「談話トピックの結束性と展開構造」『表現研究』62、pp.101-111.
- 山本綾(2003)「話題転換についての一考察－アメリカと日本のテレビのトーク番組を資料として－」『えちゅーど』33、pp.57-81.
- Brown and Levinson(1987) *Politeness:Someuniversalsinlanguageusage*. Cambridge University Press.
- Elinor Ochs Keenan and Bambi B. Schieffelin(1976) Topic as a Discourse Notion: A Study of Topic in the Conversations of Children and Adults、Charles N.Li(ed) *Subject and Topic*. NewYork:Academic Press、pp.335-384.
- John Hinds(1982) Japanese Conversational Structures、*Lingua*57、North-Holland Publishing Company、pp.301-326.
- Paul Grice(1989)*Studiesinthewayofwords*.Harvard University Press:Cambridge
(清塚邦彦・飯田隆訳(1998)『論理と会話』勁草書房)

【文字化資料の記号凡例】 12)

BTSJ	BTSK	説明
。	.	1発話文の終わりにつける。
”	”	発話文の途中で相手の発話が入った場合、前の発話文が終わっていないことをマークするためにつける。
、	,	①1発話文および1ライン中で、日本語(韓国語)表記の慣例の通りに読点をつける。②発話と発話のあいだに短い間がある場合につける。
?	?	疑問文につける。
??	??	確認などのために語尾を上げる、いわゆる「半疑問文」につける。
/少し間/	/少し間/	話のテンポの流れの中で、少し「間」が感じられた際につける。
= =	= =	改行される発話と発話の間(ま)が、当該の会話の平均的な間(ま)の長さより相対的に短いか、まったくないことを示すためにつける。
...	...	文中、文末に関係なく、音声的に言いよんだように聞こえるものにつける。
< >{<}	< >{<}	同時発話されたものは、重なった部分双方を< >でくり、重ねられた発話には、< >の後に、{<}をつけ、そのラインの最後に句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。また重ねた方の発話には、< >の後に、{>}をつける。
【 【 】 】	【 【 】 】	第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した場合に付ける。結果的に終了した第1話者の発話文の終わりには、句点「。」の前に【 【】をつけ、第2話者の発話文の冒頭には【 】をつける。
[]	[]	文脈的情報を書く。
()	()	あいづちは()で括る。
< >	< >	笑いながら発話したものや笑い等は< >で括る。
(< >)	(< >)	相手の発話の途中で、相手の発話と重なって笑いが入っている場合使う。
#	#	聞き取り不能であった部分につける。
「 」	「 」	固有名詞等、被験者のプライバシーの保護のために明記できない単語を表すときに用いる。

12) 記号凡例は、宇佐美 (2007 : 27-29) と宇佐美他 (2007 : 99-98) の中で、本稿で用いられた記号のみを簡略化して表している。

要 旨

本稿は、条件統制をした上で収集した韓国語と日本語の各言語を母語とする女子大学生の友人間の会話を分析対象とし、話題導入におけるストラテジーの運用について考察したものである。分析において、会話参加者が話題を導入するとき用いるストラテジーを「話題導入ストラテジー」と呼び、それを「メタ表現」、「認識の変化を示す表現」、「談話標識」、「注目の呼びかけ表現」の4種類に分類した。分析の結果、韓国語の会話データで合計250話題が抽出でき、日本語の会話データでは合計392話題が抽出できた。「話題導入ストラテジー」の運用を見ると、韓国語では250話題中、「話題導入ストラテジー」を使用していないものが162話題で、全体の約65%を示していることが明らかになった。その一方、日本語では392話題中、237話題（全体の60%）において「話題導入ストラテジー」が使用されているという韓国語とは正反対の結果が出た。そこで、「話題導入ストラテジー」の使用は話題転換における唐突さを軽減することになると捉え、話題の導入においては日本語の会話が韓国語の会話よりポライトであると解釈した。4種類の「話題導入ストラテジー」の中では韓日共に「談話標識」のストラテジーが最も多く使われていた。しかし、その表現形式における詳細は異なっている。韓国語では「談話標識」の中でも接続表現が70%近くを占めているが、日本語では約20%を占めている。接続表現は新しく導入される話題と先行する話題とを何らかの形で関連付ける働きをするものである。そこで、韓国語会話では会話参加者が関連性の格率(Maxim)を守ろうとする傾向が強いと解釈した。

キーワード： 話題、話題導入ストラテジー、メタ表現、認識の変化を示す表現、談話標識、注目の呼びかけ表現、ポライト

투 고 : 2009. 5. 31

1차 심사 : 2009. 6. 13

2차 심사 : 2009. 6. 27